

# 心の原風景 —我が母校—

## 佐渡市立 金井小学校

金井小学校は、佐渡のほぼ中央に位置し、全校児童314人と島内では一番児童数の多い学校です。創立は、明治22年尋常科金澤小学校としてスタートしました。平成21年には、創立120周年記念式典を挙行了した歴史の古い学校です。

教育目標「よく学び よく遊び よく働く子」の具現を目指し、地域の方々と協力をいただきながら日々の教育活動を進めています。運動会では、佐渡の代表的な伝統芸能である「佐渡おけさ」の唄に初めて挑戦しました。地域の芸能団体である荒波会の生演奏の下、代表児童による唄と全校児童による踊りを披露することができました。地域、児童、保護者が一体となった瞬間でした。



佐渡おけさの唄に挑戦

その他にも5年生による稲作体験、文化祭のふれあい体験活動でのおこし型、国道沿いの花いっぱい運動等、地域の方々からご指導とご支援をいただきながら貴重な体験をさせてもらっています。

また、冬場のスキー授業は、金井地区にある平スキー場を使用させてもらっています。

島内では体験することが難しいスキーですが、自衛隊の方々のご指導の下、広いグレンデで歓声をあげながら楽しい一日を過ごしています。



平スキー場での授業

当校は、平成25年3月に閉校となり、4月には新生金井小学校としてスタートします。現在の校地・校舎とはお別れとなりますが、地域と共に歩む学校をこれからも目指していきます。

◆教育委員会学校教育課  
(両津支所内) ☎ 23-4898



佐渡をジオパークに

# ジオパーク、推進日記

22

## ある時は「しわ」、 またある時は…?

「国境の長いトンネルを抜けると（そこは）雪国であった。」で始まる川端康成の小説「雪国」の舞台は、新潟県の湯沢だと言われています。確かにこの季節は、東京から新幹線に乗り、越後湯沢へのトンネルを抜けると一面銀世界が広がります。県外の人々は、豪雪地帯に住む新潟県の人たちは当然みんなスキーが滑れると思っっている、という話を聞いた事があります。

実際は、上・中越のような豪雪地帯もあれば、佐渡や新潟市内のように雪が少ないなど、地域によって積雪量に違いがあります。同じ新潟県内でも、なぜこのような差が生まれるのでしょうか？

佐渡島は、暖流の影響で本土に比べて比較的積雪が少ないと言われています。新潟県の上・中越地域で大雪になるのは、この時期に北西の方向から吹く「季節風」という強い風が関係しています。この季節風は、日本海の上を通過する際、温かい対馬暖流の影響で湿った空気となり、高い山脈にぶつかると湿った空気が雪に変わり、上越や中越に大雪をもたらします。雪を落とすきつた空気は、山を越え、群馬などに「からつ風」となって吹きます。

それでは、なぜ、豪雪地帯である

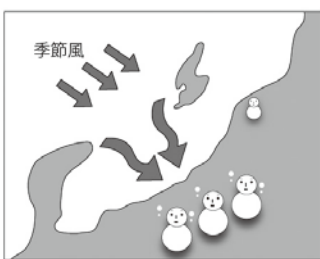
新潟県の中でも、新潟市内は積雪が少ないのでしょうか？新潟市を季節風から守る「盾」の役割を果たしているのが、佐渡島だと言われています。佐渡島の山地の方向は北東—南西に延びています。北西から吹く季節風の流れを、標高1000mを超える大佐渡山地が変えているのです。そのため、新潟市へは比較的影響が少なく、流れの変わった雲が集まる上・中越地域で大雪になると考えられています。

以前、佐渡島が「大地のしわ」であることに触れましたが、冬の新潟市から見たら佐渡島は「しわ」ではなく「盾」なのですね。これもジオパークの見どころのひとつです。

お化粧の時、しわがあるとファンデーションの「ノリ」が悪いですよね。しわの手前で粒子が溜まってしまったり…。この状態はまさに大雪を降らせる仕組みと一緒なのです。高い山の麓を「しわ」と考えると、雪が積もるのも何となくうなずけませんか？

自然界の雪とは違って、人の場合は念入りに直してムラなく仕上げますが…。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室  
(両津郷土博物館内)  
☎ 23-2101



季節風の流れ 概念図